

E 24

202

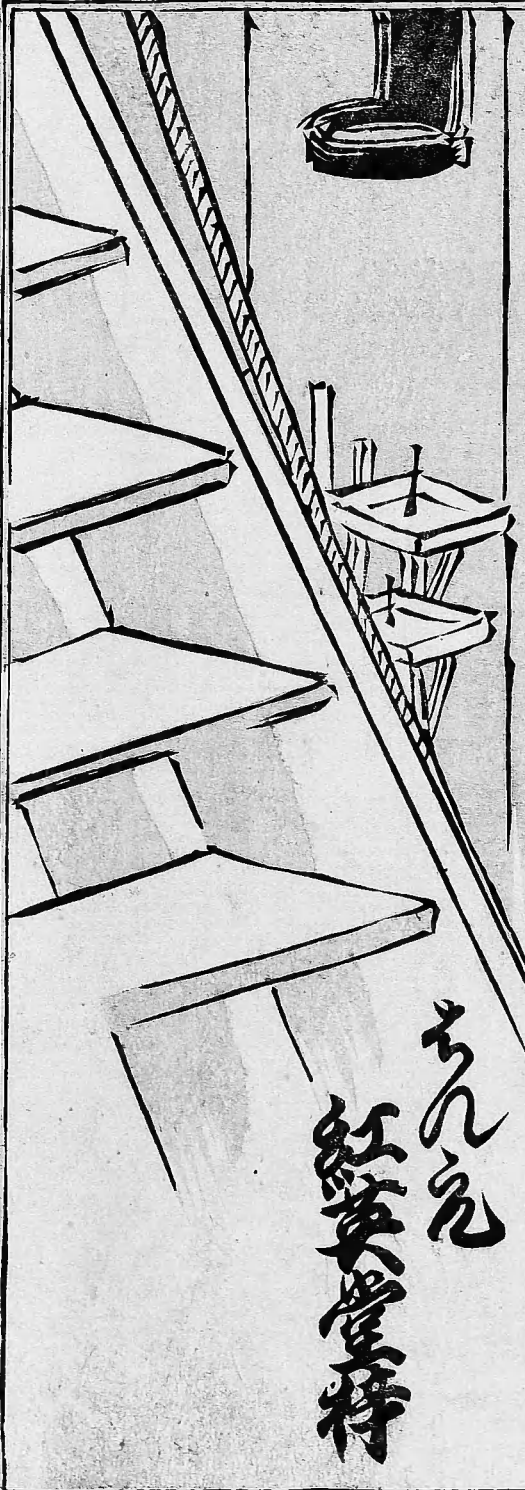
贈

郎氏

年  
月  
日

梅雨際  
仲

上



火の用心

小の 金部 梅雨酒保町 初編 上の巻

柳水亭種清保 梅雨酒保町 奥面

ちんえ 紅英堂持



小の 金部 梅雨酒保町 柳水亭種清保 梅雨酒保町 奥面 紅英堂持 初編 下の巻 月 日

即

紅梅  
紅梅

藤原  
藤原

あめ板

お梅  
お梅

柳水車

藤原  
藤原



小元  
金太郎

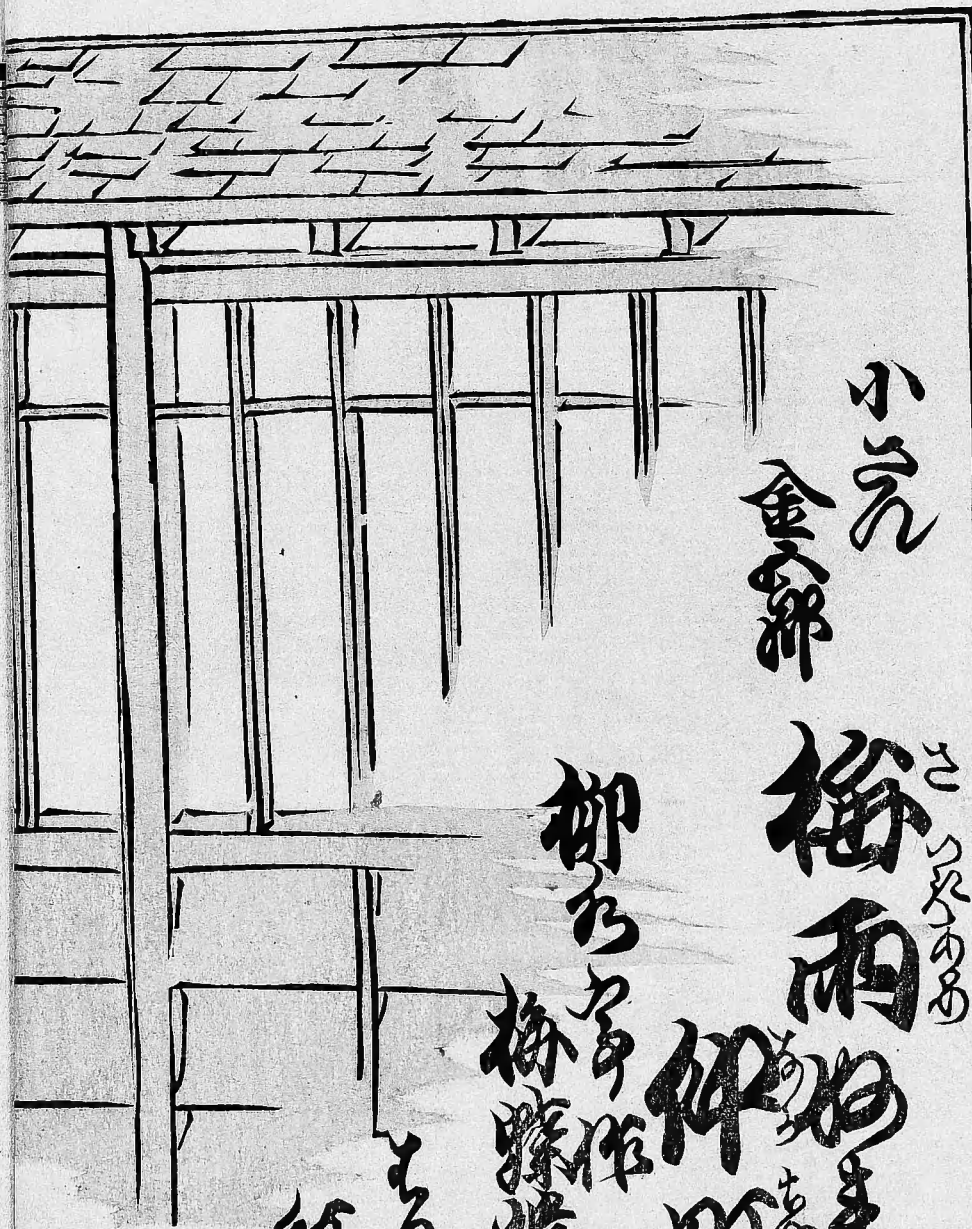
梅雨  
あき

伴町  
初編  
下巻

柳町  
梅雨  
梅雨  
梅雨

小元

紅英堂  
寿将



紅英堂の懇望小任せし番切の三番目  
か入人斬り世話の丁短船の船松の吉を合  
其三三眼の故報故教とあるも流みたるこの小元  
金太郎序巻の金と河内を二番打屋の正武編  
番打屋の金と西武木小間のこととこれと元満  
大入何屋の元と探とくサ丁を書收り  
其も長くあるもさるるんといふ二員の一巻  
かゝるめとなく切の関大期頭取めとくは六

二編

六

柳水亭種書

小関

小糸



いさめぬれぬりちやう  
きんぎょ

いさめぬれぬりちやう



義伴



結



つるねの  
お茶屋

甚く

小き

今

お茶屋





心丸



京極若村屋  
おひで童子踊  
あきひ  
大授の圖



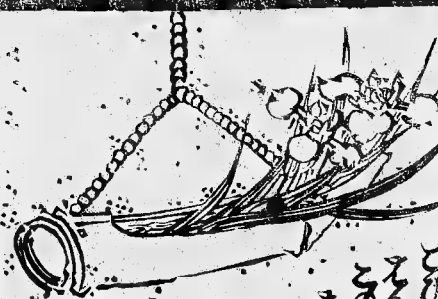


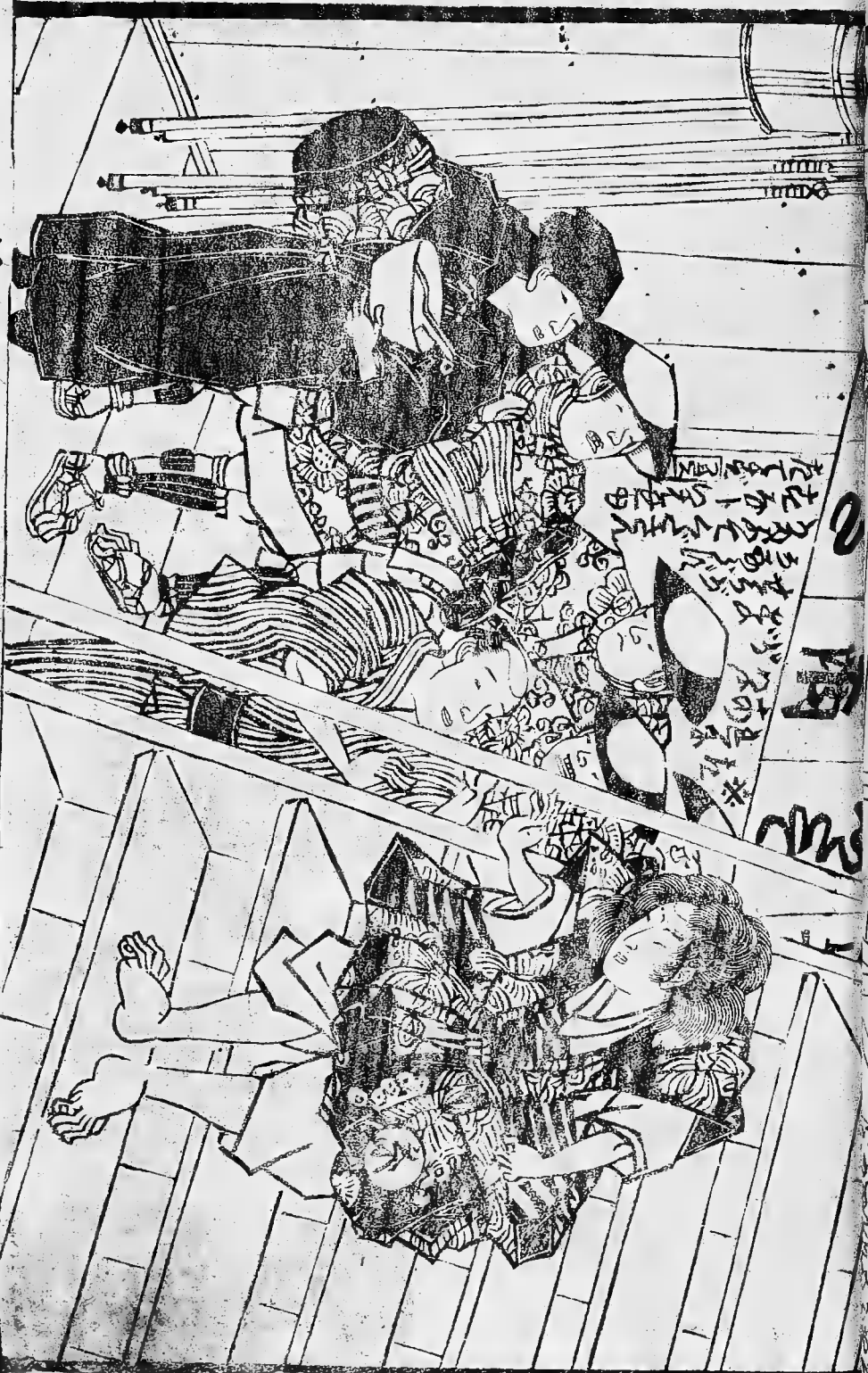
[illegible]





とてふまゝに  
てんてんてん  
とてふまゝに





持一

日るも全  
 うやとや  
 かくらぬ  
 こちをい  
 けいさく  
 まかお  
 ういさ  
 よふあ  
 あひが  
 ろちま  
 のどろ  
 ゆてま  
 きんそ  
 さきめ  
 うつて

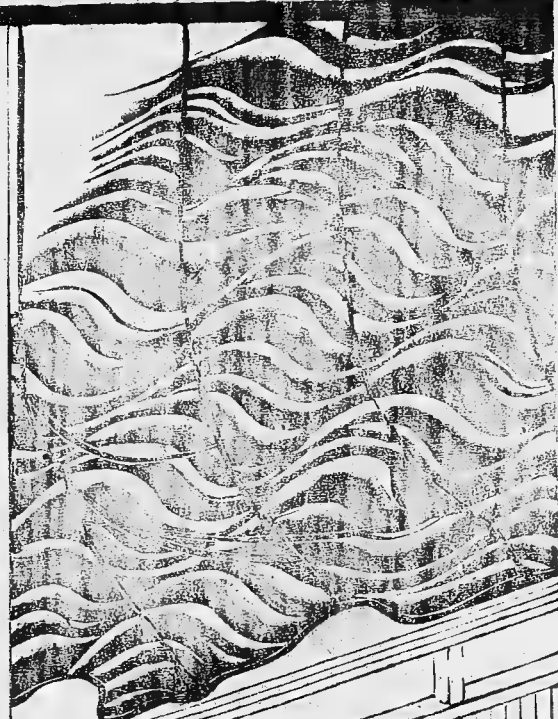


ちきり  
あつちきり  
をさへておる  
やとちきり  
そよちきり  
くちきり  
あつちきり  
ふちきり  
それなす  
ゆきん  
こま  
か  
あ  
あ  
あ



一



[illegible]

〔三〕 ありをうづみ  
 なるのひをあらうくあら  
 うとてふをうづみ  
 ふがせきをしめさう  
 とせきをあらうま  
 うとせきをあらう  
 しとせきをあらう  
 ぞとせきをあらう  
 まれふとせきをあらう  
 とせきをあらう

あ

あ、この井玉をいして  
あとのあちから  
土あちから肉  
のいのさ  
あ

あ、この井玉をいして  
あとのあちから  
土あちから肉  
のいのさ  
あ

[illegible]

あつたをひたさぬやのこゑと  
 ゆうちやうゆうちやう  
 ひきまをう  
 はぢぢや  
 あぢぢや  
 Eいし  
 とこええん  
 さのせんちやう  
 あぢぢやう

[illegible]

□フニ  
 いふちくちそ  
 ふてをひんお  
 あつてふりうさふが  
 庚戌

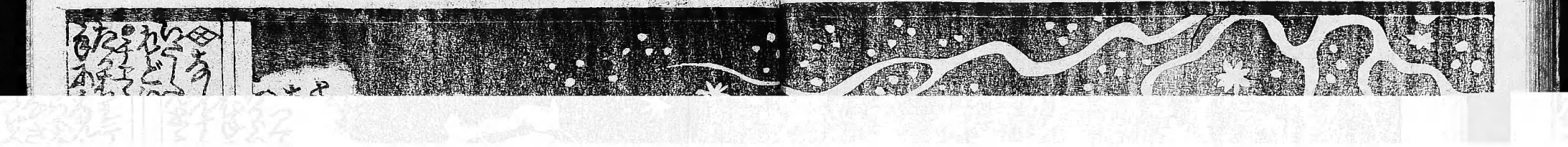
[illegible]

可  
 言  
 之  
 事  
 也  
 其  
 言  
 之  
 意  
 則  
 謂  
 此  
 等  
 人  
 等  
 之  
 言  
 不  
 可  
 信  
 也  
 其  
 言  
 之  
 理  
 則  
 謂  
 此  
 等  
 人  
 等  
 之  
 言  
 不  
 可  
 信  
 也  
 其  
 言  
 之  
 意  
 則  
 謂  
 此  
 等  
 人  
 等  
 之  
 言  
 不  
 可  
 信  
 也  
 其  
 言  
 之  
 理  
 則  
 謂  
 此  
 等  
 人  
 等  
 之  
 言  
 不  
 可  
 信  
 也

[illegible]

五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

[illegible]



安政四丁己春新鑄目錄

